

「新型コロナウイルス感染症に 対応した事業の取組について」



令和2年度
オホーツク管内
社会教育主事会 資料集



目次

北見ブロック

北見市
訓子府町
津別町
美幌町
置戸町

網走ブロック

網走市
大空町
清里町

遠軽ブロック

遠軽町
湧別町
佐呂間町

紋別ブロック

紋別市
雄武町
興部町

北海道教育委員会

オホーツク教育局
ネイパル北見

第73回きたみ市民芸術祭 「KITAMI オンライン展示」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	<ul style="list-style-type: none"> ・北見市
主催	<ul style="list-style-type: none"> ・北見市教育委員会
対象者・定員	<ul style="list-style-type: none"> ・北見市内で活動する団体及び個人で高校生以上・定員なし
内容	<p>「いつでも・どこでも・気軽に」楽しんでもらえる作品展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示方法：作品を写真撮影しホームページで公開 ・出品部門：絵画、水墨画、書道、写真、陶芸、魚拓など ・出品数：同部門1人2点まで ・出品方法：教育委員会へ作品を持ち込むか活動会場で撮影 ・公開期間：令和2年11月9日～12月14日
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の写真撮影やホームページの運営管理などは、北見文化連盟に委託し、連携を図って事業を実施した。 ・ホームページの閲覧が困難な出品者の方には、図録（写真集）を作成し無料配布した。 ・図録は公共施設でも供覧できるようにし、広く作品を鑑賞してもらった。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の想定を大幅に上回る212人の参加により、12部門・計289点の作品が集まったが、その分写真撮影を担当した文化連盟職員への負担が大きくなってしまった。 ・高校生など若年層からの応募が少なかったため、周知方法の見直しが必要。

資料（作品撮影の様子）



（作品をまとめた図録）



ピアノ体験事業

「音楽ホールのピアノ/…弾いちゃお！」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・北見市
主催	・北見市教育委員会
対象者・定員	・北見市民 ・7組限定（1組3名まで）※3歳未満は不可（申し込み多数の場合は抽選）
内容	ピアノに興味がある市民を対象に、普段体験することのできない本格的な音楽ホールで自由にピアノを弾いてもらう。 ・日 時：令和2年10月4日（日）午前10時～午後5時 1組1時間限定 ・会 場：北見芸術文化ホール 音楽ホール ・参加料：無料 ・申 込：メール、FAX、郵送
工夫した点	・当日の受付で検温、手指の消毒、健康状態の確認、マスクの着用を徹底して行い、参加者の入れ替えごとにピアノや椅子の消毒を行った。 ・客席やステージ上での写真・ビデオ撮影も許可し、ほぼ自由に音楽ホールを使用してもらった。 ・予想以上の申し込みがあったため、少しでも多くの方に参加してもらえるよう、予備日を設定して2日間で実施した。
課題・問題点	・申込者全員に参加してもらいたいが、会場を1日貸し切ることによって使用料も高額になるため、抽選はやむを得ない。（31組の申し込み）

資料（ピアノを演奏する参加者）



「おうちでフィットネス」事業

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・北見市
主催	・北見市教育委員会
対象者・定員	・子どもから大人まで
内容	・新型コロナウイルスの感染拡大防止による不要不急の外出自粛により、市民の運動不足が懸念されるため、動画配信によって自宅にいても簡単にできる運動を紹介する。
工夫した点	・不要不急の外出自粛が求められ、学校も休校となったことから、自宅で子どもから大人まで誰でもできる内容とした。 ・講師が制作した動画を YouTube にアップロードし、いつでも閲覧できるようにした。
課題・問題点	・YouTube の動画制作に不慣れな講師もいることから、事業を実施する際、講師依頼に難航した。

資料（YouTube 動画の画像）



令和3年置戸町成人祭

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・置戸町
主催	・置戸町
対象者・定員	・成人20名 ・来賓7名 ・保護者14名
内容	<p>日時：令和3年1月10日（日）11：00～</p> <p>会場：置戸町中央公民館 講堂</p> <p>内容：式典（キャンドルサービス、朗読、記念品授与など） LINE Live 配信 記念写真撮影 Social・distance・フォトスポット設置（置青協）</p>
工夫した点	<p>～成人・来賓～</p> <p>①式典2週間前からの「検温調査表」の記入・提出 ②感染リスクが高い行動自粛要請 ③当日検温と消毒の徹底 ④会場内でのマスク着用 ⑤交流会中止 ⑥受付にアクリル板とお金のトレイを用意</p> <p>～保護者～</p> <p>①当日「名前・電話番号」を受付簿に記入 ②1世帯2名まで ③当日検温と消毒の徹底 ④会場内でのマスク着用</p> <p>密を避けるために、座席間隔を1m空け、来賓の縮小や保護者の入場制限を設けた。また、当日欠席の成人・保護者向けに、LINE Live を限定配信した。</p> <p>マイクは基本的に1人1本とし、複数人が1本のマイクを使用する場合は、その都度消毒をした。</p> <p>交流会中止の代替案として、置戸町の特産品セットを渡した。</p>
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会中止に伴い、式典のプログラムが増えたため、式典時間が延びてしまった。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に追われ、成人1人1人からメッセージをもらう機会を確保できなかった。 ・LINE Live は、画質が良くなかった。

資料（写真等）



くんねっぴの未来づくり大会

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・ 訓子府町
主催	・ 訓子府町 ・ 訓子府町教育委員会
対象者・定員	・ 町民 定員 70名
内容	・ 事例発表（地域のいいね発表会） ・ グループトーク ①事例発表を見ての感想交流 ②これからどんなことをしてみたいか ③他の団体に聞いてみたいこと ・ グループ発表 ・ 振り返り
工夫した点	・ 新型コロナウイルス感染が拡大傾向に向かう時期であったが、事業効果を考え、グループトークが必要と判断し、事例発表後、3会場に分かれグループトークを実施した。 ・ グループ発表は公民館内でリモートにて行った（ZOOM 使用）。 ・ リモート実施に向けて2回リハーサルを行った。
課題・問題点	・ リモートでの事業実施が初めてであったため、タイムラグを考えて、「ゆっくり話す」ことは決めていたが、「声の大きさ」「話し方」などについても気を配るべきだった（一部聞き取りにくい部分があったようだった）。 ・ 時期もあり、例年よりも参加人数が少なかった。

資料（写真等）



公民館講座「瞑想体験」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・ 訓子府町
主催	・ 訓子府町教育委員会
対象者・定員	・ 一般町民 ・ 20名
内容	・ 阿字観の呼吸法 ・ 瞑想体験 ・ 座談会 講師：福王寺 福井住職（津別町）
工夫した点	・ 新型コロナウイルス感染症の影響による疲れや不安を軽減するために開催した。 ・ 興味を持ってもらえるようにチラシに瞑想の効果を記載した。
課題・問題点	・ コロナ感染防止策として定員を少なく設定しているため、参加をお断りした方もいたが、当日キャンセルが数名いたため、欠席連絡の徹底を促していきたい。

資料（写真等）



歴史館講座「レコード講座」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・ 訓子府町
主催	・ 訓子府町教育委員会
対象者・定員	・ 大人 ・ 各回5～10名程度
内容	郷土資料館「くねっぴ歴史館」の事業として開催 ・ レコード講座（計2回） ① 資料（レコードプレーヤー等）説明 ②レコード鑑賞 ・ 企画展「ちょっとむかしのくらしとあそび展」及び連動講座 「道具であそんでみる時間」 ※会場/町公民館ロビー ①展示資料（雑誌、玩具、家電等）説明 ②レコード鑑賞 ③展示資料に触れながら談笑。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため少人数の定員設定をいかした講座として開設。 ・ 歴史館の収蔵展示資料を活用し、思い出の曲を懐かしのレコードの音色で聴くための時間と空間を演出。 ・ 講座参加をきっかけとし、気軽に歴史館を利用してもらえるようにPR。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懐かしのレコードを題材とした講座を実施することにより、施設初利用を含む市民の参加が得られたが、通常開館を休止していることによる運営方法（開館日や開館時間等）の問題もあり、その後の歴史館利用には結びついてはいない。（コロナ禍にあっても郷土学習や文化・芸術活動を支援するため、個人や少人数グループへの施設利用と資料活用等について積極的な働きかけが必要である。）

資料（写真等）



芸術鑑賞事業「真野響子ひとり芝居 夏目漱石 夢十夜」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	津別町
主催	津別町芸術鑑賞実行委員会
対象者・定員	・中学生以上町民 ・150名
内容	・夏目漱石 夢十夜
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策として、町内在住者に限定した。・チケットの半券に個人情報に記載する欄を設けて提出してもらった。・ソーシャルディスタンスを考慮した座席の配置、固定席は一つあけて配置した。・入場者には手指消毒とマスク着用の徹底、検温にて体調確認をした。・検温時に発熱がある場合は、再検温し、責任者の判断にて入場の可否をする体制をとった。
課題・問題点	・エアコンがないため、講堂・ステージの換気がしにくい。

資料（写真等）

なし

社会教育講座

「ゴロゴ松本氏講演会 命の授業」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	津別町
主催	津別町教育委員会
対象者・定員	・小学5年生以上町民 ・150名
内容	・命の授業
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策として、町内在住者に限定した。・全席指定席とし、事前に当日来場する本人による受付で、個人情報をお願い形成にした。・ソーシャルディスタンスを考慮した座席の配置、固定席は一つあけて配置した。・入場者には手指消毒とマスク着用の徹底、検温にて体調確認をした。・検温時に発熱がある場合は、再検温し、責任者の判断にて入場の可否をする体制をとった。・館内の室温を高めにし、窓をあけるなど換気をしながら実施した。
課題・問題点	・エアコンがないため、講堂・ステージの換気がしにくい。

資料（写真等）

なし

「アソビバ! つべつ」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	津別町
主催	津別町教育委員会
対象者・定員	・小学生～中学生
内容	<ul style="list-style-type: none">・畑づくり、苗植え・草取り、生育観察・かわ塾・カヌー体験・ハロウィン工作・林業、焼き芋体験・もちつき大会・雪遊び・ツリーイング・サイクリング・夜のおはなし会・収穫・藻琴山ハイキング・料理教室・スノーシュー体験
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策として、宿泊や対面、密になる事業は中止とした。・参加者には手指消毒とマスク着用の徹底、検温にて体調確認をした。(指導者含め)・指導者とコロナ対策について事前に協議して進めた。また、事前の体調確認と個人情報の提出も求めた。・調理を伴う事業は、食事せずに持ち帰る内容に変更して行った。・係るスタッフを最低限にし、基本は職員で対応した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・宿泊を伴う事業や室内での運動教室(マスクの着用が難しい)などが実施できず、高学年の参加が少ない。・地域住民がメイン講師や運営サポートとなっている事業が多いが、コロナにより積極的にお願いしにくい。

資料(写真等)

なし

「寿大学」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	津別町
主催	津別町教育委員会
対象者・定員	・60以上
内容	<ul style="list-style-type: none">・ガイダンス・落語・気象情報（防災）・運動教室・新年会・修了式・生涯学習講話・学長講話・法話・コーヒーのお話・健康講話
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス対策として、手指消毒とマスク着用の徹底、検温にて体調確認をした。（指導者含め）・指導者とコロナ対策について事前に協議して進めた。また、事前の体調確認と個人情報の提出も求めた。・通常は6割出席で進級の単位制だが、1回以上の出席で進級できる措置をした。・旅行などバス使用の事業などは中止とした。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・集めることにリスクはあるが、高齢者は認知症や体力・筋力低下等の心配も増えるので、講座以外に見守る対応策が必要。

資料（写真等）

なし

ギャラリーコンサート「ミュージックレストラン」 (クラリネットアンサンブル)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	対象 どなたでも 定員 24名
内容	文化ホールに普段足を運ぶことがない方でも気軽に演奏を聴いてもらう機会として実施しているギャラリーコンサートについて、ソーシャルディスタンスに配慮した事業として実施した。
工夫した点	単純に人数を少なく募集しコンサートを実施すると、人と人の間が隙間だらけとなり、演奏者も来場も寂しさを感じてしまうので、「レストラン」をコンセプトに机を配置し、花を飾るなどの雰囲気づくりを行ったうえでコンサートを開催した。
課題・問題点	今後も同様の実施の場合、その都度のコンセプト作りに難しさを感じる。

資料（写真等）



グランドピアノ無料開放事業

(YAMAHA S6B / STEINWAY & SONS D-274)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	対象 どなたでも 定員 最大 14 組
内容	① 文化ホール（びほーる）ロビーにおいて無料でグランドピアノを使用していただく。（経験は不問） 1人30分として演奏いただく。 ② 文化ホール舞台においてフルコンサートピアノを無料で体験してもらう。（同じく経験は不問） 1人45分として演奏いただく。
工夫した点	文化ホールについては、多くの人が集まり発表する場もしくは、鑑賞する施設ではあるが、密集を避けるために少人数でできることはないか検討した結果、ピアノを無料で体験する事業の実施を行った。
課題・問題点	新型コロナウイルスが落ち着くと文化ホールは土曜日・日曜日の利用がほぼ埋まっている状況となり、消毒等の対応に追われさらなる新たな展開をつくり出せていないこと。

資料（写真等）



スタインウェイ(フルコンサートピアノ)



YAMAHA S6B(ロビー)

びほーる演劇ひろば（子どもたちの演劇など表現を学ぶ事業）

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	小学生が中心（中学生・幼児も可） メンバー22名
内容	<p>次代を担う青少年が、ホールという創造的な空間の中で学年の違う子どもや、スタッフとして関わる大人との関係の中で「社会」を作り、その「社会」から多くのことを学び、感性やコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>表現活動をととした子どもの居場所として、心を開放できる場づくりを行う。</p>
工夫した点	これまで金曜日午後4時30分から6時30分までの実施であったが、木曜日も同時間で実施することとして、「分散実施」の取り組みを行った。その他、例年は大きな声を出して歌を歌う、ダンスを踊るなどの練習をしたが、できる限り大声などをさげ、パントマイムやジェスチャーなど体で表現する練習を行った。
課題・問題点	毎年成果発表会を行っているが、発表会では歌を歌うこと、踊ることは避けられず、消毒等十分に注意しながら実施した。

資料（写真等）



美幌町幼稚園家庭教育学級（2園合同学習会）

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	町内の幼稚園に子どもが通園している 保護者
内容	幼稚園家庭教育学級では美幌町にある2幼稚園からそれぞれ学びたい内容の提案を受け、事業を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、事業を縮小し実施した。その中で健康に関する「耳つぼ」講座について Zoom を使用したオンライン講座とした。 講師 ゆゆた工房 鷺見 未織氏
工夫した点	出来るだけ講師と直接話ができる時間を作るなど、双方向性のあるZoomを活用した事業とした。 実際に耳を診断してもらうなど、参加型の事業とすることが出来た。
課題・問題点	新型コロナウイルス感染症により「託児」の実施が難しい。当事業も託児はなしで行った。 子どもから離れて学習する機会を今後どのようにつくるかは課題である。

資料（写真等）



美幌町高齢者教室「明和大学」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	町内在住の65歳以上の方（定員30名） ※定員に満たない場合は、65歳未満の方の入学も可
内容	<p>明和大学は今年度、開学以来初となる開設見送りを決定したが、在学生の学習意欲を維持するため、次の取組を実施。</p> <p>（1）4月～8月（学習中止期間） 通常学習時に配布している「おしらせめいわ」を毎月発行するのに合わせ、自宅でできる脳トレや頭の体操などの学習プリントを作成・同封し学生が自宅学習できるようにした。</p> <p>（2）特別学習の再開（9月～現在） 管内における感染状況が一定程度落ち着いてきた9月から、在学生のうち希望者のみが出席する形で特別学習を再開。</p> <p>（3）クラブ活動の一部再開（6月～現在） 学生が任意で加入できる特別クラブにおいて、パークゴルフ、書道、手芸、園芸の4クラブは感染状況を見ながら徐々に再開。書道クラブは10月に特別展示会も実施。</p>
工夫した点	<p>特別学習における留意事項は次のとおり。</p> <p>①登校時検温 ②学生間の距離を十分確保 ③激しく汗をかいたり、飲食を伴ったりする授業は計画せず、座学中心の内容に留意 ④短時間で終了</p> <p>また、今年度は学習会場を換気等が行き届く施設へ変更。</p>
課題・問題点	<p>未開設としてから現在に至るまで出席していない学生が（出席しないことを自ら希望する学生を含めて）いるため、今後体調面・精神面等でスムーズな復帰ができるか不安が残る。</p> <p>また、一般的に感染リスクの高い世代と言われていることから、現在の感染防止対策の徹底と体調不良時の欠席等の対策を徹底していきたい。</p>

資料（写真等）



令和3年美幌町成人の集い オンライン式典

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

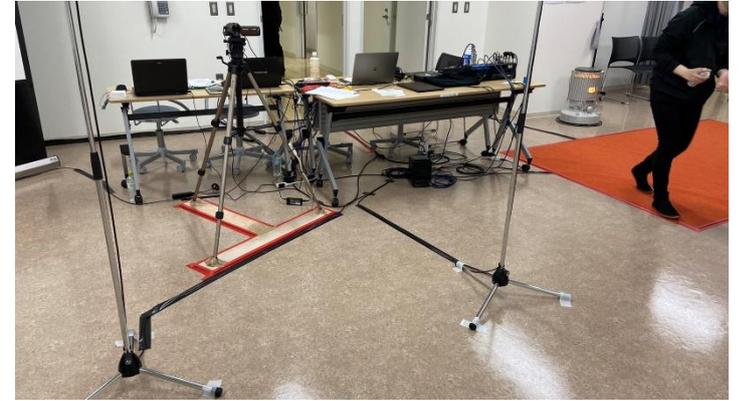
市町村名	<ul style="list-style-type: none">・美幌町
主催	<ul style="list-style-type: none">・美幌町教育委員会
対象者・定員	対象は新成人ですが、YouTube で全公開したためどなたでもご視聴いただくことが可能でした
内容	<ul style="list-style-type: none">・令和3年美幌町成人の集いをYouTube を活用し生配信した・内容 ビデオレター（主催、来賓、元担任） 新成人サークル「はたちのつどい」が企画した催し はたちのつどい代表挨拶
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・本来の式典をそのまま配信するのではなく、視聴する側が見やすいように、配信ブースを作成し配信した。・YouTube のコメント欄を活用し、配信側と視聴側の意思疎通が図れるような形式で開催した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・配信機材不足により、本来見せたい形での配信が叶わなかった。・このような状況下にある中で、配信という形であれ20歳という節目を記念できたことは、主催側、視聴側の両面で好意的なご意見を賜りました。

資料（写真等）

配信中の様子



配信会場の様子



美幌町教育委員会公式 YouTube チャンネル

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌町
主催	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌町教育委員会
対象者・定員	なし
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美幌町教育委員会所管グループによる YouTube を活用した情報発信、学習ツールとして令和2年5月1日より運用開始している。 ・これまでに美幌町出身のアスリート（石田正子さん、一戸誠太郎さん、久保恒造さんが協力出演）また、観光物産大使 TRIPLANE が歌う美幌のうたなどを配信）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において今後需要が高まるであろう動画を用いた情報発信ツールに着手した ・観光等の町外者向けの内容ではなく、あくまで町民が現在行われている町内開催事業の情報を把握できるよう配信している
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの町民へ情報を届けるため今後も継続して配信を続け、情報発信ツールとして認識してもらうことが必要。 ・視聴者の多くが若年層～中年層であることから、世代に合わせた情報発信を行い、教育委員会事業への参加、参画に繋げたい

資料（写真等）



美幌町文化祭「動画配信」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	美幌町
主催	美幌町教育委員会
対象者・定員	どなたでも
内容	美幌町文化連盟と協議の上令和2年度の「美幌町文化祭」を中止としたため、これに代わり文化に触れる機会を作ることには出来ないか検討した結果、平成31年度に実施した文化祭の映像を再編集し、団体ごとに分け、美幌町教育委員会公式YouTubeチャンネルにおいて配信した。
工夫した点	美幌町ホームページにおいて見たい団体ごとにリンクを貼った表を作成し、見たいものを見るという形にしたこと。これにより団体紹介にもつながり、数件団体に関する問い合わせが実際にあった。
課題・問題点	一般的な動画配信サイトにおいては、著作権の関係上、ダンスなど著作権のある曲の原曲をそのまま使用する場合に、配信ができない場合があるなど、一部動画内容自体に変更を加える必要があったこと。

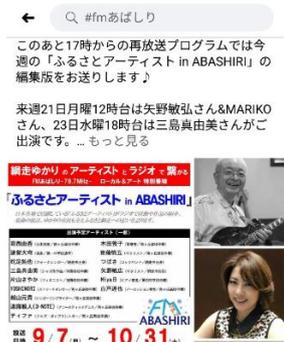
資料（写真等）



コミュニティラジオを活用した 代替え事業について

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	網走市
主催	網走市教育委員会
対象者・定員	① 網走近郊のFMあばしりリスナー、網走市寿大学生 ② 網走近郊のFMあばしりリスナー
内容	① 網走市寿大学公開講座ラジオ放送 5・6月の大学が休校した期間にコミュニティラジオ（FMあばしり）を活用した公開講座を実施した。 ・番組名：「ラジオで寿大学」 ・放送日：5月下旬～7月下旬までの隔週水曜日 全5回 ・内容：体操、脳トレ、お手紙、電話リレー、新入生紹介など ② 「ふるさとアーティスト」紹介ラジオ番組制作・放送 網走ゆかりのアーティストの公演である「ふるさとアーティストフェスティバル」が中止になったことにより、コミュニティラジオ（FMあばしり）を活用したアーティスト紹介番組を制作・放送 ・番組名：「ふるさとアーティスト in ABASHIRI」 ・放送日：9月7日～10月31日 計24回（再放送含む） ・内 容：活動紹介、楽曲の紹介、網走の思い出トークなど
工夫した点	①電話リレーやリクエスト曲募集、募集したメッセージ披露など、寿大学生とのつながりを重視した番組構成とした。 ② SNSを活用したPRの実施。
課題・問題点	① 全学生が聞いているまでには至らなかったが好評であった。 ② どのくらいのリスナー数がいたかは、統計がなく不明。



「網走湖体感ツアー」 の取り組みについて(野外活動)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	網走市
主催	網走市教育委員会
対象者・定員	小学4～6年生 20名
内容	網走における特徴的な自然環境である網走湖について、体験活動を通して学習する。 <ul style="list-style-type: none">・カヤック乗船体験・安全講習、救助体験（スローロープ、落水時の対処法）・水質調査
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・参加者には事前に参加同意書（当日の体温と参加者氏名・保護者氏名の記入）を送付し、当日受付時に提出してもらった。・受付時には、参加者とスタッフの検温と手指の消毒を行った。・体験活動時には参加者を3グループに分け、30分程度ずつ同時進行で行うことにより密を回避し、活動中はマスク着用とした。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・参加者が小学生ということもあり、三密対策を講じていたものの、友達同士でくっついてしまうことがあった。・コロナ対策にかかる時間も考慮した上で、スケジュールを組む必要がある。

資料（写真等）



「あばしり市子ども大会 2020」 の取り組みについて(屋内活動)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	網走市
主催	網走市教育委員会 網走市子ども会育成連合会
対象者・定員	市内の子ども、保護者 50名
内容	市内の子どもたちが集まって様々な活動をすることで、子どもたちの健やかな活動を助成するとともに、子ども会活動の促進に寄与する。 (1) チャレンジランキング ①あきかんつみ ②豆つまみ皿うつし ③まつぼっくりなげ ④さいころ1出し (2) 表彰式 ①ラジオ体操(皆勤賞、努力賞) ②子ども会リーダー賞 ③優良子ども会賞 ④チャレンジランキング
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・受付時に検温消毒をし、健康状態の確認を行った。 ・活動中は全員がマスクを着用し、入口のドアを常に開けることで換気をした。 ・チャレンジランキングの各ブースの備品の消毒を徹底した。 ・例年定員を設けず当日受付で実施していた事業であったが、定員を設けて事前申し込み制と変更し、スタッフ人数も制限して実施した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・三密対策を講じた上での実施であったが、体験活動中は密を避けるのが困難である。 ・受付時に参加者が一気に来てしまうこともあるため、密を避けるために複数個所に受付スペースを設置する必要がある。

資料(写真等)



網走市寿大学 (クラブ活動)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	網走市
主催	網走市教育委員会
対象者・定員	カラオケ 30・民謡 10・詩吟 10・園芸 24・書道 20 舞踊 11・短歌 9・大正琴 11・囲碁将棋 8・健康麻雀 10 茶道 (休部中)
内容	<p>寿大学において、クラブ活動希望調査を行い、講師のいるクラブについては、講師の指導の下歌や踊りを練習したり、書道の指導もしてもらったり、園芸では多くのことを学んでいる。</p> <p>(カラオケ・民謡・舞踊・詩吟・書道・園芸)</p> <p>講師不在の同好会については、学生間で協力し合い、仲間との交流も目的として、お互いに指導しあいながら楽しく活動する。</p> <p>(大正琴・囲碁将棋・健康麻雀・短歌)</p>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・例年であれば、寿大学の午後に全クラブの活動を行っていたが、クラブの日に午前、午後分かれて、広い部屋でソーシャルディスタンスを確保し行った。 ・全員マスク着用・検温・手の消毒を毎回行った。 ・最初は健康麻雀クラブでは、インターネットを使い麻雀ゲームで学習を進めた。 ・飛沫感染対策として歌うクラブや囲碁将棋ではいろいろ工夫して、ビニールつい立などを作成した。 ・詩吟や健康麻雀では、フェイスシールドを使用した。 ・園芸クラブでは、自宅で育てる苗を購入して自宅学習にも取り組んだ。(ミニトマト・シクラメン) ・クラブ所属していない学生のために、軽運動クラブの活動を10月～12月各1回保健センターの指導の下おこなった。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・慰問や大学祭なども中止となり、練習の成果を発表できる機会がなかったことが残念だった。 ・寿大学の登校日の午後に比べると参加率は少し悪かった。

資料 (写真等)



あばしい市民大学講座

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	網走市
主催	網走市民大学（実行委員会）
対象者・定員	一般
内容	市民の誰もが自由に学ぶ事の出来る多様な生涯学習の機会、文化・スポーツ等など幅広い分野から毎回講師を招き、生涯学習を支援しながら講座の運営に努めている。 （講座数5講座）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・受講者募集を収容人数の50%の人数にて募集・通常1講座のみ受講の場合は当日受付で行っていたが、感染防止のため、事前予約、全席指定として実施。・当日は、担当者が2か所で検温、手指の消毒（手指は、担当者が受講者へ除菌液の吹きかけて行った。）・受付の際は、1mごと間隔をとるよう床にガイドテープを貼る。・受付は、受付ガードを設置して接触を避けた。・金銭を扱うため担当はゴム手袋を着用し、お金はトレーにて受け渡しを行う。・会場の扉は、換気のため開けた状態にて使用・座席は、間隔を空け使用。・質疑応答用マイクは、使用の都度除菌ペーパーにて拭いて使用。・講演終了後の受講生退場は密を避け分けて行った。・講演終了後は、全座席除菌、楽屋除菌、受付で使用した備品の除菌。・感染状況に応じて、オンライン講座の実施（1講座）
課題・問題点	感染防止対策作業に人員が必要となり、実行委員会の人数では、不足のため、手配をしなければならない状況。 全席指定のため、時間ぎりぎりに来る受講者が多かった。

資料（写真等）



「おおぞら ランフェスタ」の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	大空町
主催	大空町教育委員会／大空町スポーツ推進委員会
対象者・定員	<ul style="list-style-type: none"> ・町民及び、町外者で町内に勤務または通学している者 ・定員なし
内容	<p>★女満別・東藻琴両地区に500mの特設コースを設置</p> <p>【実施期間】令和2年10月3日（土）～10月18日（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間内において好きな時間に走り、タイムを申告する。 ※学年ごとに決められた距離を走る。 ※何度走ってもよいが、申告の際は最も良いタイムを申告する。 ・申告ごとに参加賞を渡す。（1日1回） ・タイム上位3位までに賞品を渡す。また、走った総距離が1番長かった方にも賞品を渡す。 ・参加賞及び賞品は、大空町特産品・大空町公式キャラグッズ。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、減ってしまったスポーツに親しむ機会作りとして実施した。 ・「3密」を避けるため、屋外で実施し、期間内であれば好きな時間に走ることができるようにした。 ・気軽に申告できるよう、Google フォームを活用したオンラインでの申告を取り入れた。
課題・問題点	特になし。

資料（写真等）



記録に挑戦!! 『おおぞら ランフェスタ』

期 間 令和2年10月3日（土）～10月18日（日）

場 所 女満別特設コース（500m）女満別運動公園多目的広場
（コース）東藻琴特設コース（500m）東藻琴多目的運動広場

種 目 うら面の申告用紙に記載しています

ルール ①1周500mの特設コースを走りましょう！
例）小学1年生は、1kmなので、『2周』走ります。

②小学生以下は、保護者の方がタイムを測定してください。
複数のお子さんやお友達と一緒に測定しても構いません。

③日時・距離・タイムを申告しましょう！
うら面の申告用紙に必要事項を記入して提出してください。
メールでも申告することもできます。
※距離部門もあります。開催期間中、累計で、一番長い距離を走った方に賞品を用意しています。ただし、1日1回分のみのエントリーとなります。

【注意事項】

- ・市民の方、町内に勤務先がある方が対象です。
- ・本人又は保護者の責任において、実施してください。
- ・親子の前では、必ず手を洗ってゴールしてください。
- 先にお子さんがゴールしてしまつた場合は、保護者の方（あるいは）のタイムとします。

※申告用紙は、両地区 教育委員会、B&G海洋センターにあります。
問い合わせは・・・大空町教育委員会 0152-74-2111（内線507）へ

参加料無料
参加賞有り
優秀者に賞品

目標タイム（全国平均タイム）

小学1年生 男子	5分50秒	小学5年生 男子	15分29秒
小学1年生 女子	6分04秒	小学5年生 女子	16分25秒
小学2年生 男子	5分35秒	小学6年生 男子	14分59秒
小学2年生 女子	5分49秒	小学6年生 女子	15分55秒
小学3年生 男子	11分21秒	中学生 男子	13分37秒
小学3年生 女子	11分51秒	中学生 女子	15分40秒
小学4年生 男子	10分50秒	一般男子（日本記録）	7分40秒
小学4年生 女子	11分20秒	一般女子（日本記録）	8分44秒

大空町教育委員会／大空町スポーツ推進委員会

FAX申告用紙

大空町教育委員会生涯学習課社会教育G（FAX 0152-74-7477）

『おおぞら ランフェスタ』申告用紙

開催期間：令和2年10月3日（土）～18日（日）（16日間）

住 所	電話番号
所 属	（ふりがな）
親子の部の区分入 （年齢層別）	（ふりがな）
学年名 （区分層別）	学年又は年齢
種 目 （区分層別）	小学校（年少・年中・年長） 小学（1・2・3・4・5・6）年生 中学（1・2・3）年生
種 目 （区分層別）	小学1年生 1km（男子・女子）／小学2年生 1km（男子・女子）／小学3年生 2km（男子・女子） 小学4年生 2km（男子・女子）／小学5年生 3km（男子・女子）／小学6年生 3km（男子・女子） 中学生 3km（男子・女子）／一般3km（男子・女子）／親子の部 1km

【タイム記入欄】 ※タイムは、秒以下も記入してください。（例：●分●秒○）

日	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
							走った時間 分 秒
4	5	6	7	8	9	10	
走った時間 分 秒							
11	12	13	14	15	16	17	
走った時間 分 秒							
18	19	20	21	22	23	24	
走った時間 分 秒							
25	26	27	28	29	30	31	

※FAX、メール申告者及び入賞者の賞品配布開始（10/28まで）

【参加賞引き換え場所】 こちらから申告できます！

大空町教育委員会（月～金曜日）	女満別B&G海洋センター（火～土曜日）
女満別事務所（女満別研修会館内）	東藻琴B&G海洋センター（月～金曜日）
東藻琴事務所（東藻琴総合支所2階）	時間：8時45分～17時30分

参加賞の引き換え期間 10月5日（月）～28日（水）

「おおぞら町民作品展」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・大空町
主催	・大空町教育委員会
対象者・定員	・町民 ・定員はないが、公共施設のオープンスペースの面積に応じて出展数を制限
内容	文化の秋の恒例行事「町民文化祭（文化展・芸能祭）」を、コロナ禍の現状を鑑み中止としたが、日頃から創作活動に取り組まれている方々の成果発表の場を確保するため、町民文化祭（文化展）の代替イベントとして、町民・サークル・文化団体加盟団体が作成した絵画・刺繍・陶芸・写真などの作品を公共施設や文化施設のオープンスペースに長期間展示をした。
工夫した点	①2期間に分けて実施 1. 展示期間 （1）令和2年10月29日（木）～11月25日（水） （2）令和2年11月27日（金）～12月24日（木） ②3会場に分散して実施 2. 展示場所 （女満別地区）大空町教育文化会館、女満別研修会館 （東藻琴地区）東藻琴農村環境改善センター ③作品の搬入（展示開始の前日）・搬出（展示終了の翌日）の時間帯を分けて密とならないようにした。
課題・問題点	オープンスペースとはいえ施設の一部のため、施設全体を使うイベントの有無を事前に確認する必要があった（防災訓練等）。

資料（写真等）

（大空町教育文化会館）

（女満別研修会館）

（東藻琴農村環境改善センター）



「大空町町民大学講座」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	<ul style="list-style-type: none"> ・大空町
主催	<ul style="list-style-type: none"> ・大空町生涯学習奨励員協議会 (後援：大空町教育委員会)
対象者・定員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般(町外可) ・100名(施設定員の半数)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 計2回 ①12月 4日(金) 18:30~20:00 テーマ:「私のアイヌ文化伝承～アイヌ工芸を通じて～」 ②12月18日(金) 18:30~20:00 テーマ:「新型コロナウイルスの現状と課題 ～自然災害との関連を含め～」
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、講師を町に招聘せず、ZOOM を用いてオンラインで開催した。 ・受講方法として、会場に足を運びスクリーンを通して受講するほか、個人の端末からも受講できるようにした。 ・ZOOM のインストール方法や操作方法について記載した資料を事前に参加者に送付した。 ・サーモグラフィーカメラを設置。 ・ウポポイが開業したことで、全国各地でアイヌ文化への関心が高まっているという観点に着目し、講演内容を決定した。 ・今一番関心がある「新型コロナウイルス」について取り上げ、危険性や予防策の周知を目的とした学習の場とした。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインだからという理由で敬遠してしまう方もいる。今後長引くことが想定されるコロナ禍に対応するため、町民がオンラインに触れる機会を増やし、浸透化を図る必要がある。 ・参加者を正確に把握するために、個人端末からの参加者のユーザーネームを実名に設定するよう指示するべきであった。

資料(写真等)



「ことぶき大学授業」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取り組みについて

市町村名	・大空町
主催	・大空町教育委員会
対象者・定員	・ことぶき大学東藻琴校生
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1月21日（木）ことぶき大学東藻琴校の授業として実施 ・幼稚園児とオンライン（ZOOM）で交流 園児による歌の発表 ・小学生とオンライン（ZOOM）で交流 小学生から大学生にインタビュー形式で総合的な学習の時間（福祉）の単元で取り組んでいる内容について質問（次回のことぶき授業にて、今回の授業をもとにパワーポイントでまとめ発表してもらう～オンライン開催）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・例年は、大学生と園児・小学生が実際に対面して伝承遊び等を行っているが、新型コロナ集中対策期間の延長に伴い、ZOOMを活用したオンライン交流を実施した。 ・事業当日の3日前から体調を記録する健康チェックシートの提出を義務化し、大学生の体調の把握を徹底した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・オフラインと比べて実施できる事業の幅が狭い。オンライン（ZOOM）ならではの交流方法を見出す必要がある。（画面共有やブレイクアウトルームの活用） ・幼稚園側のオンライン環境が整っておらず、教育委員会ですべて準備を行った。各施設に最低限のオンライン環境を整える必要がある。

資料（写真等）



わんぱくスポーツ塾の

取組について

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	小清水町
主催	小清水町スポーツ推進委員会
対象者・定員	スポーツ少年団に所属する小学生児童及び参加を希望する小学生（定員なし）
内容	年7回（6～12月） （※土曜授業や学校行事の該当しない土曜日に開催） 【本年度開催予定（当初）】 6月～体力測定（開催中止） 7月～テニス 8月～カヌー・釣り・昆虫採集 9月～陸上競技 10月～ボッチャ・ドッジボール 11月～トランポリン・卓球・バドミントン 12月～体力測定・ボッチャ 【進行】 ①開塾式 ②種目実施 ③後片付け・掃除 ④閉会
工夫した点	※7～9月までは屋外種目のため、通常開催。 ※10～12月までは屋内のため、感染対策を徹底し開催。 【主な対策方法】 ①検温 ②マスクの着用（屋内アリーナ内の競技中は外す） ③手指・使用用具の消毒 ④屋内競技時の石鹸手洗（30秒以上）※10月以降 ⑤室内換気の励行（開閉会式・休憩中・集合時など）
課題・問題点	マスクの着用は定着しているが、対象が小学生のためアリーナ内の競技中や指導者から説明を受ける際に密が発生しやすい。 （注意後は私語が収まるものの、時間が経つと再び騒がしくなってしまう）

資料（写真等）



ドライブスルーお祭り屋台 in しれとこしゃり

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	斜里町
主催	斜里ユースまちづくり委員会、一般社団法人斜里青年会議所
対象者・定員	制限なし
内容	<ul style="list-style-type: none">・町内の商店、レストラン等の出店ブースをつくり、お祭り屋台空間を来場者に提供した。(190組来場・1232品販売)・主旨は新型コロナウイルスにより、影響を受けた地元商店の活性化及び、同ウイルスにより中止が相次いだ、町内のお祭り系イベントの補填を行い、町全体の賑わいの促進である。・発端は斜里ユースまちづくり委員会の企画による。当委員会は、若者向けの公民館講座に位置し、まちづくり活動などの事業を行い地域の活性化に寄与することや、その活動の中で異業種の青年層人材による交流を深めることを目的とした20代の若者主体のサークルである。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・”新型コロナウイルス感染拡大防止対策として”ドライブスルー・ウォークスルー方式”を採用し、参加者・スタッフの接触を最低限に抑えた。また、イベント時間を2時間半に限定した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・主催者にとって、この規模のイベント開催は不慣れであり、オペレーションに混乱が生じ、商品の受け渡しに遅延が生じた。・”ドライブスルー・ウォークスルー方式”という特殊な方式であるため、スタッフが商品を持って、参加者へ届けなくてはならない。体力的、量的に考えればより多くのスタッフ数の確保が必要である。

資料（写真等）



清里子ども塾「遊ぼう☆スタンプラリー」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	清里町
主催	・清里子ども塾実行委員会 ・清里町教育委員会
対象者・定員	町内小学生、町内未就学児童とその保護者（100名まで）
内容	・受付→スタンプラリーカードに順じ、各ブースでの体験プログラムを行う。→受付に戻り解散 【種目内容】 ペットボトルロケット、縄跳び、短冊づくり、空気砲体験、ロボットジャンケン、コロナ禍におけるメッセージカード作成
工夫した点	・5月の緊急事態宣言下において、社会教育関係団体ごとに実施している青少年事業の中止が相次いだ。そのなかで学びを止めないという思いで、教育委員会が音頭を取り、感染対策を講じ、短い時間で各団体の特色を活かした事業をしたいという思いで実施しました。団体への理解を得るために、全体会議の場で力説し、共感を得ました。 ・ウイルスに対するエビデンスが少ない中で、感染リスクを下げるために各ブースでの滞在時間の縮小と接触物の特定など取り組んだ ・
課題・問題点	・子どもは楽しいと密になってしまう。（制御が困難） ・団体間連携から1つの成果を作ることで終わってしまい、年度内の継続につながらなかったこと（燃え尽き症候群） ・子ども1人で各ブースを回るが、対大人で緊張していた。子どもの緊張をほぐす雰囲気作りなどが必要

資料（写真等）



URL から動画で模様が見れます。 <https://fb.watch/38WddwddCw/>

青少年教育の取り組みについて (まるせっぴ子ども文化教室)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	遠軽町
主催	遠軽町教育委員会（担当課：教育部丸瀬布教育センター）
対象者・定員	<ul style="list-style-type: none"> ・町内丸瀬布に居住する小学3年生から6年生（16名） ・町内丸瀬布に居住する中学1年生から3年生（5名）
内容	<p>[目 的] 青少年の健全育成を目的とする公民館活動</p> <p>[日 時] 月1回程度 10:00～12:00</p> <p>[会 場] 丸瀬布中央公民館、他</p> <p>[内 容] 文化・スポーツ活動（創作活動、伝統行事、レクリエーション）、野外活動（収穫祭）</p>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠軽町教育委員会としての独自の「新型コロナウイルス感染防止に係る対応方針(遠軽町教育委員会教育部通知)」を定め、方針に基づき計画立案及び運用等に努めた。 ・当初計画では、バス旅行やキャンプ、調理実習などを予定していたが、感染リスクへの懸念やソーシャルディスタンスの確保が困難となる可能性があるため、実施内容を見直した。 ・参加者と指導者共に、マスク着用と手指消毒、活動前の検温を実施。室内活動では座席の間隔を十分に確保し、ソーシャルディスタンスの徹底と定期的な換気を講じた。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染防止対策を講じることで、実施内容に多くの制限が発生するケースが散見し、マンネリ化してしまう傾向が見られた。 ・全国的な新型コロナ感染状況により、参加に対する不安感が見られ、参加者数が少なく事業中止としたケースがあった。



「マスク着用」「ソーシャルディスタンス」「換気」に留意しながらの活動の様子

高齢者教育の取り組みについて (高齢者大学 しらかば大学)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取り組みについて

市町村名	遠軽町
主催	遠軽町教育委員会（担当課：教育部生田原教育センター）
対象者・定員	町内生田原・安国に居住する60歳以上の町民 （令和2年度在籍数：48名）
内容	[目的] 高齢者の生きがいを見出せる学習の場 [日時] 月1回程度 10:00~12:00 [会場] 安国公民館、他 [内容] 講義、スポーツ活動、地域奉仕活動、他
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠軽町教育委員会として独自の「新型コロナウイルス感染防止に係る対応方針(遠軽町教育委員会教育部長通知)」を定め、方針に基づき計画立案及び運用等に努めた。 ・学生と担当職員共に、マスク着用と手指消毒、受講前の検温を実施。また、参加人数により、実施会場を分散する対応を講じた。 ・会場までのバス移動は、乗車人数の制限（乗車定員数40名を20名程度に設定）や運行回数を増やす対応を講じた。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な新型コロナ感染状況により、参加に対する不安感を抱く学生が多く見られる。 ・高齢世代は持病や特定疾患の有無により重症化する傾向が顕著に見られるため、学生によっては参加を躊躇するケースが見られる。一方で、感染防止に対する温度差を感じる場面が随所に見られる。 ・活動実施にあたり、事前準備等に係る時間が大幅に増加した。会場や使用した備品類の消毒等に時間を要し、担当職員の業務量が増加傾向にある。



「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」等の対策を講じながらの活動。
(左写真：土器作り教室 右写真：健康教室)

文化財保護の取り組みについて (遠軽町郷土館 町民講座)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	遠軽町
主催	遠軽町教育委員会（担当課：教育部社会教育課）
対象者・定員	一般町民 各回10名 (申込み定員に満たない場合は、町外者の受講を認める)
内容	[目的] 町民向け郷土に関する学習機会の提供 [テーマ] 「学田③ 人物語」 [日時] 令和2年11月28日(土)、29日(日) 各日、13:30~15:30 [会場] 遠軽町郷土館 研修室 [指導] 遠軽町郷土館社会教育指導員(会計年度任用職員)
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 遠軽町教育委員会として独自の「新型コロナウイルス感染防止に係る対応方針(遠軽町教育委員会教育部長通知)」を定め、方針に基づき計画立案及び運用等に努めた。 受講者数を各回「10名」とし、ソーシャルディスタンスが確保できる諸室や定期的な換気が可能な活動環境に配慮し、感染防止に努めた。 受講者及び担当職員共に、マスク着用と手指ならびに備品類の消毒を徹底。受講前の検温や北海道の「新型コロナ通知システム」を活用した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 受講者の多くが、新型コロナウイルス感染症への不安感を抱きつつ受講する様子が伺えた。 新型コロナの感染拡大の状況によっては、事業を中止とする条件下としたため、実施日まで適切な判断が必要となることから、現状分析等に係る職員の負担が増加する傾向にあった。 使用する机や椅子などの消毒作業も適切に実施したため、職員の業務量が増加した。

【遠軽】本年度の町民講座「郷土の歴史を見つめて」が11月28日、町郷土館で行われた。遠軽の開拓に関わった人々について、社会教育指導員の杉山俊明さんが「夢や希望を信じて集まったキリスト教の信者が多い」と解説した。

遠軽は1897年(明治30年)、学田に「北海道同志教育会農場」が開かれて本格的な開拓が始まった。本州において同会に関わった人々には、会長の押川方義(東北学院大の創立者)

キリスト教信者ら開拓従事

遠軽 郷土の歴史テーマに講座

写真や資料を使って昔の北海道や遠軽について語る杉山俊明さん



や評議員の海老名正ら、明治・大正期のキリスト教界を代表する指導者が名を連ねているという。杉山さんは、その人たちの横顔を紹介しながら、「大変だっただろうが、遠軽には精神的に豊かな社会があったのではないかと振り返っていた。

講座は町教委の主催で毎年開かれているが、新型コロナウイルスの影響で本年度はこの1度のみ。講座は同じ内容で20日にも開かれた。(梁井朗)



の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	佐呂間町
主催	佐呂間町教育委員会
対象者・参加人数	60歳以上の高齢者（学生数97名）
内容	<ul style="list-style-type: none"> 概ね月2回、午前中講演等、午後クラブ活動を実施（4～6月休講、7～11月開講、12～1月休講）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する学生の不安に配慮し講座内容を一部変更。保健師による新型コロナウイルス対策の講話や、健康運動指導士によるステイホーム中もできる運動指導などを盛り込んだ。 各年度3分の2以上の出席で修了認定しているが、新型コロナウイルス感染症対策として、体調不良による欠席の場合は出席として認める対応をとった。 新型コロナウイルス感染症対策（体調不良時の外出自粛、ソーシャルディスタンス、マスク、手指消毒、換気等）について、随時文書や口頭で注意喚起し、寿大学での感染防止に努めるとともに、学生への啓蒙の場とした。 7月からの開講にあたっては、学生の組織である運営委員会で開講の是非や活動中の対策などについて協議を行い、また12月の休講の際には運営委員長と協議するなど、学生と協議しながら事業運営を行った。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する感覚は個人差が大きく、感染対策をあまり気にしない人がいる一方、（参加者以外からも）事業の開催自体に不安を訴える声もあり、対応が難しい。 休講が長引くことで、意欲の低下、体力の低下などが懸念される。

資料（写真等）



さろま健康ウォーキング



の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	佐呂間町
主催	佐呂間町スポーツ推進委員
対象者・定員	町民・20名
内容	<ul style="list-style-type: none">・ウォーキングの効果、ウォーキングレッスン、準備運動・ウォーキング
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・例年スポーツ推進委員の企画事業として行っている事業（スターまつり）を新型コロナウイルス感染症対策が難しいため中止としたことから、代替事業として実施・密を避けるため屋外で実施できる事業とし、受付や事前のレッスンで利用する屋内施設ではソーシャルディスタンスが確保できる人数により定員を設定・家族でも参加できるようにできるだけ安全なコースを設定・参加しやすいよう休日の午前、午後の部を設定した（午後の部は申込がなく中止）
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・安全確保のため警備配置、同行員を付けたが、実際に行うと配置や役割分担の詳細を決定しておかなければならない場面があった。（同行員が警備にあたらなければならなくなる場面があった）・参加者の年齢、普段の運動習慣によりペースがバラバラで大きく先行してしまう方との距離がかなり開いてしまった。

資料（写真等）



元気アップスイミング セルフスクールの取り組みについて



テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	佐呂間町
主催	佐呂間町教育委員会（武道館・温水プール「スター」）
対象者・定員	対象者：小学4年生～成人 / 定員：なし
内容	<p>コロナ禍の中、密接・密集を避けた新しいスタイルでスイミングスクールを実施することが望ましいと考え、「スター」で用意した練習メニューを見ながら各自で練習に取り組む自習スタイルで事業を開催した。</p> <p>① ジュニアコース （小学4年生～6年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面かぶりクロールクラス ・クロール息継ぎクラス ・クロールレベルアップクラス <p>② マスターズコース （中学生以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水中運動クラス ・初歩のクロールクラス ・クロール息継ぎクラス
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間（8月～10月）に渡り、練習に取り組むことが出来るよう1クラスにつき5種類のメニュー表を作成し、1メニューにつき2回ずつの実施とした。 ・プール内でも見やすいよう、メニュー表はカラーで印刷しラミネート加工を施した。 ・1人での実施が難しい部分はパーソナル指導（予約制での個人指導）にて対応した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・内容について町民に理解されず、参加者が見込みより少なかった。（小学生1名、中学生以上9名）周知方法や実施方法に工夫が必要であった。 ・中級者以上には、この実施方法でもある程度技術の習得が可能であったが、初級者にとっては指導者からのフィードバック等がないと技術の習得が難しかったと思われる。





の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	佐呂間町
主催	佐呂間町立図書館
対象者・定員	町内在住者
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言を受け、令和2年4月21日から5月6日までの休館を決定。休館中に利用者に本を貸出する体制づくりが必要と考え、臨時休館中貸出サービス「おうちで読もう」の実施を決定した。 ・利用者が借りたい本を電話またはFAXで申し込みし、職員が自宅へ配送するか、随時来館してもらい図書館の玄関先で貸し出す（1人1回10冊まで）。 ・町ホームページ、玄関前ポスター、学校への通知及びチラシ配布、北海道新聞掲載により周知し、4月23日から開始した。 ・来館受け取りは52人（305冊）、宅配は23人（123冊）、貸出期間延長2人（16冊）、合計77人（444冊）の実績があった。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言の延長に伴い、当初5月6日までの実施期間を5月10日まで延長し、5月10日以降も休校期間中の小中学生を対象とした宅配に限り5月31日まで継続した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施決定から周知までに時間を要したため、結果的に実施期間が短くなり、事前の周知も十分にはできなかった。 ・北海道新聞への記事掲載と学校を通じての各家庭へのチラシ配布により、一定の周知効果は得られ、本を必要とする人へ本を届けることはできたと考えられるが、今後、臨時休館の必要が生じた場合は、すみやかな実施決定を心掛け、よりよい周知方法を検討していきたい。

資料（写真等）



「子ども会駅伝」代替案としての「リレーマラソン大会」(中止)

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	<ul style="list-style-type: none"> ・湧別町
主催	<ul style="list-style-type: none"> ・町青少年指導センター（町内子ども会連合会） （教委は事務局支援）
対象者・定員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会区単位の子ども会員（小学生・中学生）対抗
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・53年続く恒例行事、国道約12kmを9区に分割して走る「子ども会交通安全駅伝」は、選手のバス移送の面や、開閉会式や各関門において関係者や応援者の局所的な密を取り除けないことから、実施困難であった。 ・そのため代替案として、8月、閉園中のチューリップ公園を借用、園内に1周800mの周回コースを設け、14周を8人1チームでたすきをつなぐ大会を企画提案した。 ・役員の間には、沿道の風物詩が消えることへの抵抗感から、「これは駅伝ではない」との声あり。代替行事の位置付けではなく、「駅伝大会」は中止し、新規事業として「リレーマラソン」を開催することで合意。 ・出場数が少なく競技成立せず、開催3日前に中止を決定した。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な会場は、駐車場の確保、応援場所の確保、タスキ受渡し区間の設置など対策に有効だった。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・監督会議を開き安全面の周知を図ったが、「中止が無難」とするムードもあり、出場申込が少なかった。 ・業種別ガイドラインを順守して十分な対策を取るも、それに対する信頼性は高くなく、住民の不安はぬぐい切れなかった。 ・伝統行事の内容が変わると、会員の役割意識が薄れ、「出場しない」という選択肢が生まれた。

資料（写真等）



令和元年度駅伝大会
（国道242号を走り、関門でタスキ受渡し）



チューリップ公園内の外周に
コース決定

生涯学習講座「湧別町民大学」開催にこぎつける

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	湧別町
主催	湧別町民大学実行委員会（町民有志と PTA 役員 12 名、事務局は社会教育課）
対象者・定員	一般町民、地域住民（町外者も可） 200 席程度（50%）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会においては、開催賛成派と慎重派の2つに意見が対立。いつでも中止にできる体制で、実施する方向で準備することに。 ・開催数は例年の 5 回から 2 回に減。講師 5 名のうち、後に 2 名が辞退、さらに 1 名は講演 2 日前に中止決定したため。 ・2 回合計 202 名が受講。（例年の 6 割程度）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・開催可否判断は教委としての責任判断となるが、委員の意見を最大限尊重するものと定義して、実行委員会で主体的に協議。 ・実施可能とする根拠として、感染対策を周知徹底。 ・リモート出演も検討したが「住民に根付いていない」と却下。 ・講演キャンセル料の設定については、中止判断日を期間ごとに区切って負担割合を設定し、契約書に明記。 ・中止分の受講料前払い者に対しては返金。町外者へは定額小為替を郵送。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・いくら体制を整えても中止判断が直前であるほど、受講者側は迷惑を被り、主催側は疲弊した。 ・「リモートによる講演会の効果」をどう評価するか新たな悩みが生じています。「本人がそこにいるリアリティや緊張感、会いに来た感覚」には劣るものの、「参加者が相互につながる感覚」、「課題を共感する感覚」、「パブリックビューイングを楽しむ感覚」として満足できるかどうか見極める必要があります。

資料（写真等）



受付～開場を早め、事前申込制にし、混雑回避



開講 30 分前の会場は少数でやや焦り

「第26回もんべつしこどもまつり」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・紋別市
主催	・紋別市教育委員会・紋別市青少年健全育成推進委員協議会
対象者・定員	・小学生以下の子ども及びその保護者
内容	<p>6月中旬に開催しているこどもがつくるこどものためのおまつり。</p> <ul style="list-style-type: none">◆あそびコーナー<ul style="list-style-type: none">・宝さがし（賞品を用意）・わなげコーナー・スーパーボールすくい◆工作コーナー<ul style="list-style-type: none">・折り紙で遊ぼう（新聞紙等を利用）・らくがきコーナー◆ヤクルト早飲み競争ほか（賞品を用意）◆子ども市コーナー（ポップコーンコーナー）◆ジュース販売コーナー◆食事コーナー（ジンギスカン 100 kg・豚汁 1,000 人分）
工夫した点	<p>6月開催⇒延期とし9月に開催。 周知の制限⇒広報・新聞報道はしない。 対象者にのみチラシ配布。</p> <p>会場制限⇒出入り口を2箇所に固定し検温・消毒を行う。 入場⇒入場時チラシ記載の名前・住所・体温を記入し提出。 整理券を配り、入場時間・退場時間を把握した。</p> <p>規模の縮小⇒密になるイベントについては中止。 食事⇒食事容器は蓋つきのもので持ち帰り可能とした。</p>
課題・問題点	<p>食事の際、並び導線を確認していたが人数が想像以上であったため、密になってしまう。声かけ等行ったが聞かないため、次年度は看板、メガホン等による周知を行っていく。</p>

資料（写真等）



「スマホ・タブレット講習会」

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・紋別市
主催	・紋別市教育委員会
対象者・定員	・60歳以上の一般市民 定員 30名
内容	①市HPから生涯学習情報誌『とっかり』をみてみよう ②市HPから youtube 生涯学習課チャンネルをみてみよう ③LINEやビデオ電話を使って画面を共有しよう
工夫した点	「いつでも・どこでも・どんなときも」学習できるよう今年度より始めた、生涯学習情報誌と生涯学習課チャンネルの視聴やスマホ・タブレットの便利さを体験してもらうことを目的に開催。より理解を深めてもらうため講師の他職員により対応した。 <感染対策は下記のとおり> ①事前申込による受付（名前・住所・年齢） ②入場前・入場後の消毒、体温のチェック ③2M以上の間隔をとった机の配置
課題・問題点	スマホ・タブレットに不慣れな高齢者は、講演の内容では理解することが難しいため、つまづいた際に直接教えることができる職員が必要。理解した者同士が教え合う展開にしたいが、コロナ対策の観点からできないのが課題。

資料（写真等）



「野外体験学習」の取り組み

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	雄武町
主催	雄武町教育委員会・雄武町子ども育成会
対象者・定員	小学生・中学生（定員：20名）
内容	<ul style="list-style-type: none">・魚釣り体験・ネイチャーゲーム（ウォークラリー）・夕食作り（カレーライス） ※カレーライスコンテスト・スイカ割り・キャンプファイア・肝試し・海の生物観察・宝さがし
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・地元で開催し、宿泊は密を避けるため「バンガロー」とし、定員以下の宿泊数とした。・移動には、バスを使用し「ソーシャルディスタンス」等の身体的距離を確保する。・人と人との距離を保つよう努める。・マスク、フェイスシールドを用意し、感染リスクの回避に努める。・手指用消毒液などを用意する。・地元開催で育成者や協力者が、安全に参加者の見取りができる。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・食事作りでは、調理台が狭かった事で広めにスペースをとる必要があった。

資料（写真等）



「ゆるっとシェイプアップ教室」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

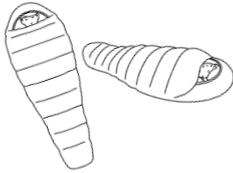
市町村名	・ 滝上町
主催	・ 滝上町教育委員会
対象者・定員	・ 一般市民 ・ 定員なし
内容	<ul style="list-style-type: none">・ ①個別処方（運動前に血圧、体組成測定、体カテストを行う）、②集団レッスン（リズム体操、有酸素運動）を7月から3月にかけて月1回、年度内に全8回実施する。・ カラダづくり基本編を7～9月にかけて3回、ヨガを取入れたエクササイズ応用編を10月～3月にかけて5回実施する。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ交付金（ICT 教育加速化推進事業）を利用してリモート教室で事業を行える体制を整え、文化センターを会場として教室ができるようになったこと。・ 札幌市、北海道の警戒ステージが高まっている状況において、徹底したコロナ対策を行っている。従来札幌から滝上へ講師を招き実施していたが、11月の教室からオンラインによるリモート教室で実施している。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none">・ 教室の会場となるスポーツセンター柔剣道場の窓が天井近くにあるため窓を開ける事が出来ず、換気扇及びサーキュレーターを使用して換気をしているが、利用人数が増えると事業の継続が困難となる。・ オンラインによるリモート教室を実施しているところだが、サーバ本体のクラウド容量に対応できなかったことから動画が途絶えたりすることがあった。

資料（写真等）



「キャンプ講座」 の取り組みについて

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

市町村名	・ 興部町
主催	・ 興部町教育委員会
対象者・定員	・ 高校生以上（18歳～） ・ 20名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイスブレイク ・ キャンプの基礎知識に関する講話 ・ 実技 <ol style="list-style-type: none"> ①火起こし ②テント設営 ③ロープワーク（もやい結び） 
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、レジャーも人込みを避ける傾向にある中、全国各地でキャンプの人気が高まっているという観点に着目し、事業内容を決定した。 ・ 密を避けるために、野外で実施できる内容を取り入れた。 ・ 図書館と連携し、キャンプや野外活動に関する本を展示し、参加者の意欲向上に努めた。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 密を避けて野外で実施した事もあり、移動や準備に少々時間がかかってしまった為、それらの時間も考慮し、スケジュールを組むべきであった。 <p>（キャンプの基礎知識に関する講話より、実技に興味があり参加してる方が多かったので、実技に多く時間をかける等、時間配分を改善する必要がある。）</p>

資料（写真等）



アウトリーチ事業における「コミスキ(コミュニ ケーションスキルトレーニング)」の取組について

テーマ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応したアクティビティの展開

市町村名	ネイパル北見
主催	
対象者・定員	依頼のあった学校、団体等・定員の規定はなし。
内容	<p>今年度、宿泊研修を中止した学校が、アウトリーチ事業を活用し、コミュニケーションスキルトレーニングを依頼するケースが増加した。そのため、「3密」を回避しながら活動できるアクティビティを工夫した。</p> <p>[活動例]</p> <p>○アイコンタクト・バースデーリング 無言でジェスチャーをつけず、アイコンタクト（ウインクの回数など）のみで情報交換し、誕生日の順番に並ぶ。</p> <p>○一筆ロープ絵 5人グループで活動。2メートル間隔で印をつけたロープを使う。5人は印をつけた箇所のみを持ち、常にロープのテンションを張ったまま、正方形や三角形、星などの形を作る。</p>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションを体験する活動を取り入れ、飛沫感染防止に配慮した。 ・互いの距離を保つことが可能な活動を取り入れ、ソーシャルディスタンスに配慮した。 ・活動の前後の手洗いを徹底した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体が希望する「ねらい」に対応できるよう、より多くのアクティビティを考案する必要がある。 ・使用物品の消毒や参加者の事前、事後の手洗いなどを確保した時間配分について、団体責任者と共通理解を図る必要がある。

資料



令和2年度オホーツク管内社会教育関係職員研修会

テーマ 新型コロナウイルス感染症に対応した事業の取組について

主催	オホーツク管内教育委員会協議会
対象者・定員	社会教育行政機関及び社会教育施設等の職員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13:00～13:15 受付 ・ 13:15～13:30 開会 ・ 13:30～15:00 講話「今後の社会教育の方向性について」 講師：元北星学園大学教授 河野 和枝 氏 ・ 15:00～15:15 休憩 ・ 15:15～16:00 質疑・意見交換 ・ 16:00～ 閉会
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演は、道内の感染状況を考慮して札幌からの遠隔での実施としたが、参加者の参加方法については、意見交換や情報交換の機会の充実を考え、感染防止の対策を講じた上で会場に参集しての実施とした。 ・ Web 会議システム Zoom を通しての講話としたことで上記の日程を変更し、意見交換の際に予定していたグループワークと休憩を講話の中に組み込み、集中力を維持して参加できるよう工夫した。 ・ オンラインツールならではの双方向のコミュニケーションが図られるよう、グループワークや意見交換の際に自由に持ち運びができる iPad を使って各グループを回り、河野先生とも交流ができるよう工夫した。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本研修会の他にも Zoom を活用して研修会を実施したが、音声の共有がうまくいかず試行錯誤を繰り返している。本研修会でのアンケートでもこの点についてご意見をいただき、ICT を活用した学習においては、参加者の学びを保証する上で“見える”“聞こえる”環境を整えることも大きなポイントと感じる。

資料（写真等）

